

第 25 回えいが部「恐怖分子」(1986年)

台北。夜明けの街で、銃声につきパトカーのサイレンの音が響く。アマチュア・カメラマンのシャオチャン(リウ・ミン)は、恋人のシャオウエン(ホアン・チアチン)を置いて外に飛び出す。不良たちのアジトの古アパートが、警察の手入れを受けたのだ。クー警部(クー・パオミン)率いる警察隊に包囲されたビルの裏から、混血の不良少女、シューアン(ワン・アン)が飛び降りる。足を痛めながらも現場から逃げる彼女の姿を、シャオチャンはカメラに収める。同じ頃、スランプに苦しむ小説家のイーフェン(コラ・ミャオ)は、医師の夫リーチュン(リー・リーチョン)を送り出す。仕事だけが生きがいのリーチュンは、病院で課長のポストを狙って画策中。イーフェンは昔の勤め先を訪ね、元恋人のシェン(チン・シーチェ)と旧交を温め合う。一方、シューアンは収容された先の病院から母親に連れ出され、家に閉じ込められている。苛立つ彼女はいたずら電話を始めた。電話帳で見つけた適当な相手に、脅し文句を並べ立てるシューアン。彼女を撮影したシャオチャンは、これがもとでシャオウエンと喧嘩して、空き部屋になっていた例の古アパートに引っ越す。イーフェンはシェンとよりを戻し、一夜を共にするが、スランプは続く。その矢先、偶然にもシューアンのいたずら電話にイーフェンは出てしまう。リーチュンに話があると脅迫をほのめかす謎の女に不安を抱いたイーフェンは、シェンを呼び出し、相手が指定した場所へ。そこはあの古アパートで、出てきたシャオチャンを見て、イーフェンは立ち去り、そのまま家に帰らなかった。行方不明の妻を心配したリーチュンは、友人だったクー警部に相談する。イーフェンは数日で戻ったが、別居話を切り出す。良き夫と自負していたリーチュンは困惑し悲しむが、彼女を止められない。一方、シューアンは家から抜け出て、ナンパした男とホテルへ。ところが相手の財布を盗んだ現場を見つかつて、はずみで男を刺して逃げる。逃げ場と踏んだアジトを訪れた彼女は、シャオチャンに会う。風邪をひいていたシューアンをシャオチャンは看病し、彼女からいたずら電話の一件を聞く。一夜を共にした後、シューアンは不良仲間と立ち去った。シャオチャンは裕福な実家に戻り、兵役通知を受取り、シャオウエンとよりを戻す。しばらくして、イーフェンの苦心の新作が文学賞を受賞、彼女は一躍時の人に。内容は、ある怪電話をきっかけに破綻するすれ違い夫婦のドラマだった。テレビで彼女を見たシャオチャンは、リーチュンに連絡を取り、彼に“真相”を話す。リーチュンはイーフェンに会い、“真相”を話し、彼女を連れ戻そうとするが拒否される。課長もポストも手に入らず、絶望するリーチュン。リーチュンはクーを訪ね、二人で酒をくみ交わす。「課長になった」と嬉しそうに語るリーチュン。夜明け。クーは高いびき、起き上がったリーチュンの目に涙が伝う。リーチュンの主任が路上で射殺される。目を覚めたクーは拳銃とリーチュンが消えたのに気づく。リーチュンはイーフェンとシェンのもとへ赴き、シェンを撃ち、イーフェンに威嚇の一弾を浴びせる。そして、シューアンを見つけ、ホテルの一室で対峙する。身構える二人。その時駆けつけたクーがドアを蹴破る。銃声が響く。クーが目を覚ます。彼は浴室で、頭を拳銃で撃ち抜い

て自殺したリーチュンを見つける。同じ頃、目覚めたイーフェンは吐き気に襲われる。

<スタッフ>

監督：エドワード・ヤン（楊徳昌）

- ・光陰的故事 《光陰的故事》 In Our Time（1982年）109分 第2話「指望」
（新人若手監督4人の演出による4話構成のオムニバス作品）
- ・海辺の一日 《海灘的一天》 That Day, on the Beach（1983年）167分
- ・台北ストーリー 《青梅竹馬》 Taipei Story（1985年）110分
- ・牯嶺街少年殺人事件 《牯嶺街少年殺人事件》 A Brighter Summer Day（1991年）
- ・エドワード・ヤンの恋愛時代 《獨立時代》 A Confucian Confusion（1994年）
- ・カップルズ 《麻將》 Mahjong（1996年）
- ・ヤンヤン 夏の思い出 《一一》 Yi Yi（2000年）

脚本：エドワード・ヤン（楊徳昌）、シャオイエー（小野）

製作：リン・ドンフエイ（林登飛）

撮影：チャン・ツァン（張展）

音楽：ウォン・シャオリヤン

<キャスト>

- ・イーフェン（周郁芬）：コラ・ミャオ（繆騫人）
- ・リーチュン（李立中）：リー・リーチュン（李立群）
- ・シェン（沈）：チン・スーチェ（金士傑）
- ・クー警部（顧警部）：クー・パオミン（顧寶明）
- ・シューアン（淑安）：ワン・アン（王安）
- ・シャオチャン（小強）：マー・シャオチュン（馬邵君）

<エドワード・ヤンの生涯>

1947年、上海に生まれ、2歳のときに家族で台北に移住した。ロックと手塚治虫に影響されて育った。台湾の国立交通大学で電気工学を学び、次いでフロリダ大学で計算機工学の修士号を所得したが、やがて映画製作に興味を持ち南カリフォルニア大学に入学。しかしすぐに中退し、しばらくアメリカで電気関係の仕事についていた。

1981年に台湾に帰国後、日本を舞台とした余為政監督のデビュー作『一九〇五年の冬天』で脚本と製作助手を担当し、映画界入り。同年、シルビア・チャンが企画したテレビドラマ・シリーズ『十一個女人』の1話「浮萍」の監督に起用され、1982年に新人監督4人によるオムニバス映画『光陰的故事』の第2話「指望」で映画監督デビュー。

1983年、初長編映画『海辺の一日』でヒューストン映画祭グランプリを受賞。以後、1985年に『台北ストーリー』、1986年に『恐怖分子』、1991年に『牯嶺街少年殺人事件』、1994

年に『エドワード・ヤンの恋愛時代』、1996年に『カップルズ』を監督。侯孝賢とともに台湾ニューシネマを代表する一人となった。

2000年の『ヤンヤン 夏の思い出』でカンヌ国際映画祭監督賞を受賞した。同作完成のころから癌を患い、その後7年ほど闘病生活を続けていたが、2007年6月29日、結腸癌による合併症のためアメリカ・カリフォルニア州ビバリーヒルズの自宅で死去。59歳だった。闘病中もジャッキー・チェン製作総指揮で初のアニメ映画『追風』に着手していたが、数分間の断片を残したのみに終わった。1990年代半ばには『如果』『成長季節』など舞台劇も演出した。